

# International Exchange

## ラハティ応用科学大学との学部間交流 〈ジャパンウィーク2015〉

富山大学芸術文化学部講師 ペルトネン 純子

### 1. ラハティ応用科学大学との学部間交流

ラハティ応用科学大学との友好協定の歴史は、平成9(1997)年から始まる\*1。また学生作品の相互交流展は、平成14(2002)年にラハティ市で開催して以来、平成15(2003)年に高岡、平成17(2005)年にラハティ、平成20(2008)年に高岡、平成22(2010)年にラハティ、平成25(2013)年に高岡、そして平成27(2014)年にラハティで行っている\*2。

ラハティ応用科学大学との学部間交流を促進させる試みを検討してゆく中で、共同して行うプロジェクト実施の重要性についてラハティ応用科学大学で当時カリキュラムコーディネーターであったEssi Pullinenと確認した。そして2015年12月にフィンランド首都ヘルシンキで開催される「ジャパンウィーク2015」へ共同参加し、両学部の国際交流を広く広報する機会を設けることにした。ジャパンウィークへの共同参加は、例年開催する相互交流展とは異なるプロジェクトであったが、相互の学部において理解と協力を得られ共同参加が可能になった。

### 2. ジャパンウィーク2015の概要

ジャパンウィークは、1986年11月イタリアで第1回目が開催され、2015年12月フィンランドでの開催は40回目にあたる。日本の伝統芸能や創造的な文化を披露・紹介し、楽しみながら日本文化を知ってもらう国際交流イベントである。ジャパンウィーク2015のイベント概要は表1の通りである\*3。

ジャパンウィーク2015に参加した76団体のうち、日本の大学に関連していると思われた大学は、芸術文化学部を含めて8団体であった(「早稲田大学書道会/書道」、「中京大学晴地舞/よさこい」、「金城学院大学書道部/書道パフォーマンス」、「愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ/吹奏楽」、「立命館大学書道部/書道パフォーマンス」、「山口県立大学文化創造学科/デザイン」、「松山大学書道部『南風会』/書道」)。芸術文化学部以外の大学の参加団体は、日本の文化紹介に焦点をあてたものが多く、芸術文化学部のようなフィンランドとの交流を示すようなものではなかった。

表1 ジャパンウィーク2015イベント概要

項目	概要
開催地	フィンランド共和国ヘルシンキ市
開催期間	2015年10月21日(水)～26日(月)
開催規模	日本側参加者1,000人、フィンランド側参加者50人、見学者64,000人
主催	公益財団法人国際親善協会、フィンランド共和国ヘルシンキ市
後援	在フィンランド日本国大使館、国土交通省、文部科学省、フィンランド政府観光局、ヘルシンキ市観光局、日本政府観光局、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構、一般財団法人自治体国際化協会、一般財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
助成	公益財団法人双日国際交流財団
協賛	日本航空株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社みずほ銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行

### 3. 「富山大学芸術文化学部とラハティ応用科学大学デザイン学部/大学授業紹介」

ジャパンウィーク2015のプロジェクトメンバーは表2の通りである。また日本からフィンランドへ渡航したのは内田教授とペルトネンである。

表2 ジャパンウィーク2015プロジェクトメンバー

項目	概要
芸術文化学部	内田和美(教授) ペルトネン純子(講師) 事務局
ラハティ・デザイン学部	Essi PULLINEN(学部長<2015年1月より>) Pekka KOPONEN(講師) Susana Corneh(ジュエリーコース学生)

展示会場オープニングセレモニーは、展示実演団体を対象としたリボンカッピングセレモニーとして10月22日(木)9時45分から10時、アンナンタロという展示実演を行う施設で行われた。



写真1 展示会場オープニングセレモニー



写真2 展示会場の様子



写真3 展示を見学する来場者の様子

表3 ヘルシンキ市アンナタロでの展示概要

項目	概要
場所	Annantalo 2階 No.223 (Annankatu 30, 00100 Helsinki)
期間	2015年10月21日(水)～10月24日(土)
時間	10時～17時
来場者数	展示期間中毎日約100人
展示スペース	縦2×横3×高さ2.5 (m)
展示物 (芸術文化学部)	Fireplace Model
	Urushi Brooch
	Vehicle Model Panel
	Project Panel 1 〈Kanaya-machi Rakuichi in Samanoko〉
	Project Panel 2 〈Design Management Workshop〉
展示物 (ラハティ・デザイン学部)	Project Panel 3 〈Washi and Light〉
	Project Panel 4 〈Kamaboko University〉
	Vehicle Model Panel 1
	Vehicle Model Panel 2
	Jewelry Design Panel 1
	Jewelry Design Panel 2
Jewelry Design Panel 3	
Jewelry Design Panel 4	
Jewelry Design Panel 5	
Jewelry Design Panel 6	

#### 4. まとめ

展示期間中は、本当に多くの来場者があり、学部間の教育交流に興味を示す方が多くいた。またペルトネンが平成15(2003)年頃に文部科学省在外研究員としてラハティ応用科学大学(当時はポリテクニク)に滞在していた時の学生の来場もあった。このことは双方の学部における継続した教育交流の重要性を改めて実感する機会になった。また外国で芸術文化学部の教育を紹介する機会を得て改めて感じたことは、本学部の教育や研究に関する英語化された情報の少なさである。本学部に興味を持ってくれた来場者からの質問の多くに、「展示されていること以上の情報が、学部HPに英語情報として掲載されているのですよね?」ということであった。国際間の教育連携のためにも、学部としてどのように国際化を図るのか、これからの課題になると思われた。

#### 註

\*1 ペルトネン純子、「ラハティ応用科学大学との新たな交流に向けて」、富山大学芸術文化学部紀要第9巻、平成27年2月、p.32-33。

\*2 ペルトネン純子、「ラハティ応用科学大学における交流展2014」、富山大学芸術文化学部紀要第10巻、平成28年2月、p.20-21。

\*3 公益財団法人国際親善協会、「第40回ジャパンウィーク フィンランド・ヘルシンキ」事業報告書、[http://www.iffjapan.or.jp/application/files/7114/5100/5492/JapanWeek2015\\_report.pdf](http://www.iffjapan.or.jp/application/files/7114/5100/5492/JapanWeek2015_report.pdf)